

2020年11月6日

報道関係各位

11月14日は世界糖尿病デー

シンボルカラーのブルーライトアップ 全国128ヶ所で実施

世界糖尿病デー実行委員会（一般社団法人日本糖尿病学会・公益社団法人日本糖尿病協会）は、11月14日の世界糖尿病デーに国内の著名な建造物をブルーにライトアップし、糖尿病を正しく理解し、予防につとめることを市民に訴えます。

■ブルーライトアップ

今年は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響で、街頭での血糖測定イベントなど、人が集まる行事の実施が困難になりましたが、糖尿病に対して団結して闘うことを示すシンボルカラーの青色を用いたライトアップを日本全国で実施します。今年のシンボルライトアップは、富山県富山市の富岩運河環水公園です。世界糖尿病デーの啓発活動を始めて13年、COVID-19の影響で、ブルーライトアップの数は今年初めて大きく減少しました。

■世界糖尿病デー特設サイト

従来型の集客イベントの代わりに、Webサイトを活用したオンラインイベントも実施しています。コロナ禍にあって外出や通院を控えたことにより血糖コントロールが乱れがちな患者さんに対し、適度な運動の重要性をアピールする特設サイトを開設しました。こちらでは、毎日の歩数を入力する都道府県ごとのランキングや青色を身につけた写真を投稿するページが人気となっています。（特設サイト：<https://www.world-diabetes-day.jp/>）



■公式ポスター

従来のブルーサークルを主体にしたデザインから、アドボカシーをテーマとするポスターに一新しました。COVID-19の感染が広がった初期には、「糖尿病患者は感染しやすい」という誤った情報が一部に流れ、糖尿病に対するマイナスイメージが拡大しました。中国やアメリカのデータから、糖尿病があってもCOVID-19に感染しやすいとは言えないことがわかっています。（※1）公式ポスターでは、世の中から糖尿病患者さんに対する偏見をなくすために、正しい知識と理解が必要であることを訴えています。

（※1）日本糖尿病協会 HP「今、糖尿病とともに生きる人へ」より

https://www.nittokyo.or.jp/modules/patient/index.php?content_id=90

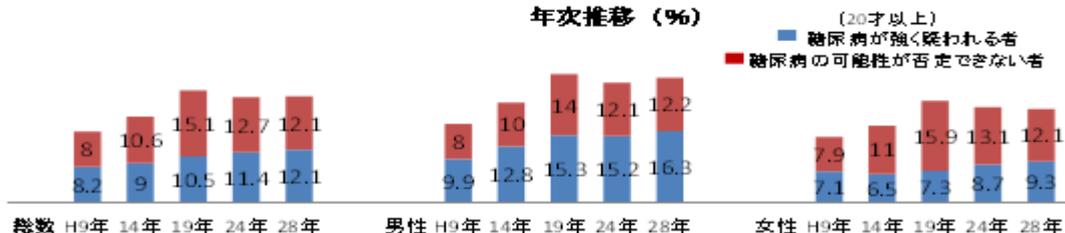


2016年（平成28年）国民健康・栄養調査（厚生労働省）によると、糖尿病患者数は推計で1,000万人（前回調査比+50万人）、予備群を含めると2,000万人で、成人の4人に1人は糖尿病ないしはその予備群です。

日本の糖尿病の現況

（厚生労働省：平成28年国民健康・栄養調査より）

「糖尿病が強く疑われる者」「糖尿病の可能性が否定できない者」の割合の
年次推移（％）



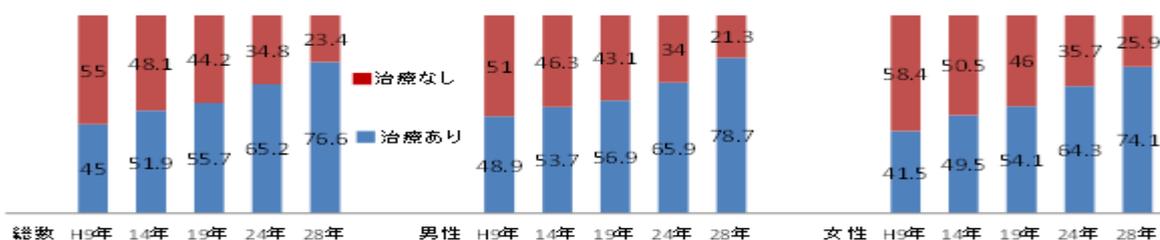
「糖尿病が強く疑われる者」「糖尿病の可能性が否定できない者」の推計人数の
年次推移(万人)



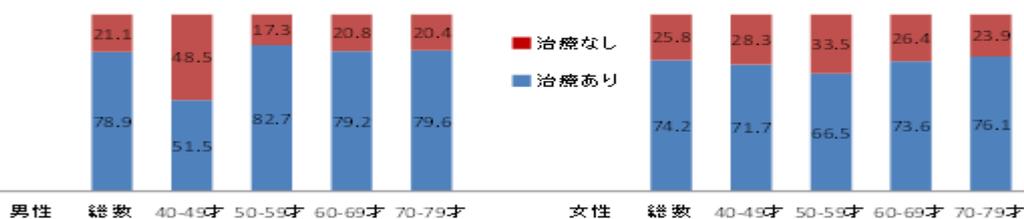
日本の糖尿病の現況

（厚生労働省：平成28年国民健康・栄養調査より）

「糖尿病が強く疑われる者」における治療状況の年次推移(％)



「糖尿病が強く疑われる者」における治療の状況(％)
(40才以上、性・年齢階級別)



■世界糖尿病データ関連データ■

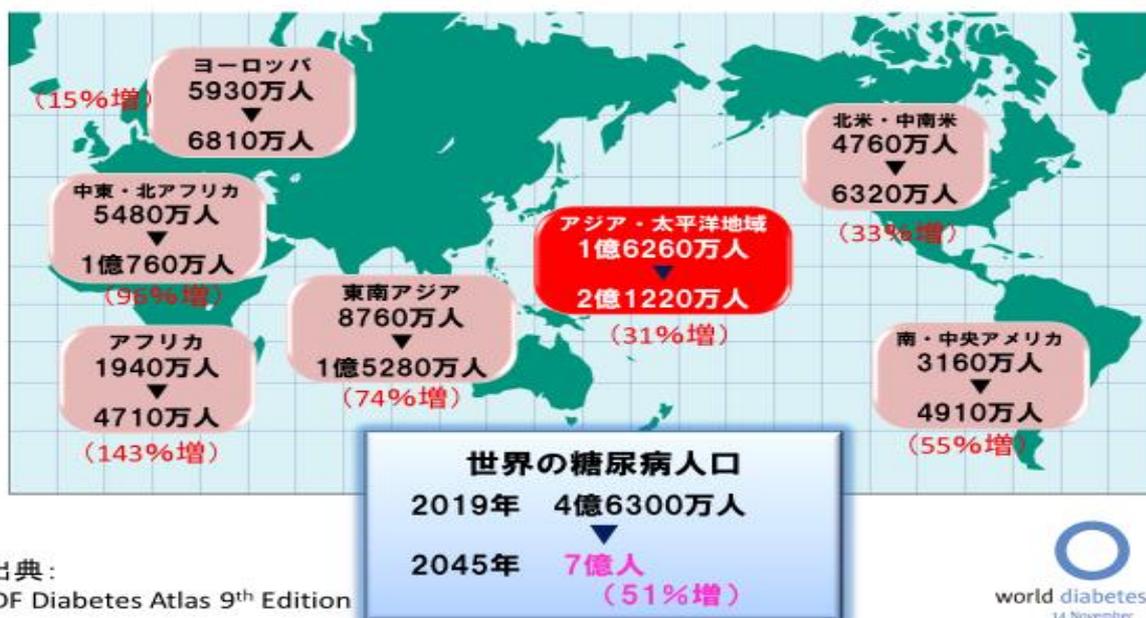
(出典:IDF Diabetes Atlas 9th Edition 2019)

糖尿病のデータ(20-79 歳)	2019 年 (対 2017 年)	2045 年 (対 2017 年予測時)
世界の有病率	9.5% (+0.5%)	10.9% (+1%)
糖尿病患者数	4 億 6300 万人(+3800 万人)	7 億人 (+7100 万人)
糖尿病での死亡数	420 万人 (+20 万人)	
耐糖能異常 (予備群)		
人口比	7.5% (+0.2%)	8.3% (+0.3%)
人数	3 億 7390 万人(+4880 万人)	5 億 3160 万人(+1680 万人)
妊娠時の高血糖状態(20-49 歳)		
割合	15.8% (-0.4%)	13.3%
影響を受ける出生数	2040 万人 (-90 万人)	1800 万人
小児・若年 1 型糖尿病(0-19 歳)		
1 型糖尿病患者数	111 万 100 人 (+3600 人)	
毎年新たに診断される患者数	12 万 8900 人 (-3700 人)	
糖尿病関連の医療費(20-79 歳)	7600 億 USD/ 約 83 兆円 (+333 億 USD)	8450 億 USD/ 約 91 兆円 (+690 億 USD)

<成人(20-79 歳)糖尿病患者数 上位 5 カ国>

順位	国	2019 年患者数	順位	国	2045 年患者数
1	中国	1 億 1640 万人	1	中国	1 億 4720 万人
2	インド	7700 万人	2	インド	1 億 3420 万人
3	アメリカ	3100 万人	3	パキスタン	3710 万人
4	パキスタン	1940 万人	4	アメリカ	3600 万人
5	ブラジル	1680 万人	5	ブラジル	2600 万人

世界の糖尿病人口 (2019年/2045年)



関連ウェブサイト■

世界糖尿病デー実行委員会	http://www.wddj.or.jp/ (ブルーライトアップ／イベント一覧掲載)
日本糖尿病協会	http://www.nittokyo.or.jp/
日本糖尿病学会	http://www.jds.or.jp/
日本医師会	http://www.med.or.jp/
日本歯科医師会	http://www.jda.or.jp/
日本糖尿病対策推進会議	http://www.med.or.jp/tounyoubyou/index.html
厚生労働省 国民健康・栄養調査	http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kenkou_eiyou_chousa.html
IDF	http://www.idf.org/
IDF Diabetes Atlas	http://www.diabetesatlas.org

★世界糖尿病デー（11月14日）の由来

1921年に糖尿病治療に必要なインスリンを発見したフレデリック・バンティング博士（カナダ／1891-1941）の誕生日。シンボルカラーのブルーは、国連色とどこまでも広がる青空の色から採用されました。2006年12月20日、国連総会において糖尿病の脅威に関する決議が採択され、（UN Resolution 61/225／United Nation）公式な国連デーとなりました。

★世界糖尿病デー実行委員会とは

2006年の国連決議を受けて、日本国内の糖尿病啓発を促進するために日本糖尿病協会と日本糖尿病学会により設立された任意団体です。世界糖尿病デーに関する国内の啓発活動を統括し、各地のブルーライトアップや地域密着型イベントに補助金を支出するほか、多様なメディアを利用して糖尿病啓発を行っています。

★IDFとは

International Diabetes Federation (IDF／国際糖尿病連合)は、170カ国・地域から230以上の糖尿病関連団体が参加する組織で、1950年から世界の糖尿病関連団体をリードし、増加する糖尿病患者とその予備群を支援する活動を展開しています。2006年の国連決議採択では、世界保健機関（WHO）とともに主導的な役割を果たしました。日本糖尿病学会・日本糖尿病協会もIDFの正会員です。

★IDF Diabetes Atlasとは

IDFが発行するDiabetes Atlasは、2000年に初版発行後、2年に一度、IDFと世界の専門家が協力し、糖尿病患者数、発症率、死亡率、世界・地域・国レベルの医療費支出などのデータを収録しています。

◇国内ブルーライトアップ、イベントに関するお問い合わせ先◇

公益社団法人日本糖尿病協会 事務局

〒102-0083 東京都千代田区麹町2-2-4 8F

TEL : 03-3514-1721 FAX : 03-3514-1725

E-mail : office@nittokyo.or.jp